

本件は警察庁からも同時発表しています。本ニュースリリースは、国土交通記者会、交通運輸記者会、自動車産業記者会で配布しております。

本部広報2015-037

2015年11月20日

一般道路の後席シートベルト着用率は3年連続で35.1%。

改善の兆し無く、今なお低い、後席シートベルト着用意識

JAF（一般社団法人日本自動車連盟 会長 小栗七生）と警察庁は合同で、10月1日（木）～10月10日（土）までの間、「シートベルト着用状況全国調査」を実施し、その結果を公表しました。

全国883箇所調査した結果によると、後部座席でのシートベルト着用率は、一般道路で3年連続の35.1%にとどまりました。一方、高速道路等においては2002年の合同調査開始以来、過去最高の71.3%（前年70.3%）となりました。



後部座席シートベルト着用



後部座席シートベルト非着用

交通事故の際、後部座席でシートベルトをしていないと発生する3つの危険性

- 1 車内の構造物（ピラーやシートなど）に激突し、自らが傷害を負う危険性
- 2 運転者や助手席同乗者へぶつかり、危害を加える危険性
- 3 窓などから車外に放出される危険性

※衝突テスト（JAFユーザーテスト）の映像はJAFホームページから<http://ch.jafevent.jp/detail.php?id=135>

また、運転席の着用率は一般道路では98.4%（前年98.2%）、高速道路等では99.4%（前年99.5%）、助手席においてもそれぞれ90%を超える結果となりました。

後部座席は他の座席と比べ、依然として着用率が大幅に低く、また、一般道路と高速道路等では着用率に約2倍の差がある等、一般道路の着用率の低さが際立つ結果となり、特に一般道路での後部座席シートベルト着用の重要性や非着用の危険性が十分に認識されていないことを示す結果となりました。※詳細は、添付資料を参照ください。

JAFでは乗員の安全を確保するため、後部座席同乗者にも自発的にシートベルトを着用するよう、全席シートベルトの着用、並びにチャイルドシートの使用について、今後もさまざまな啓発活動を続けていきます。

■添付資料：シートベルト着用状況全国調査概要2015年

「シートベルト着用状況全国調査（2015年）」の詳細報告書（PDFファイル）のダウンロードは
こちらから→<http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/data/index.htm>

■参考ページ：後席シートベルトの重要性

→http://www.jaf.or.jp/eco-safety/rearseat_safety/index.htm

このリリースへの問い合わせは以下までお願いします。

一般社団法人 日本自動車連盟 広報部 Tel：03(3578)4920 Fax：03(3578)4912

E-Mail:koho@jaf.or.jp URL: <http://www.jaf.or.jp/>